

平成二十二年度 中学校入学試験問題 国語

◆ 字数制限がある問題は、「、」「や」「。」も一字と数えます。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学部の二年生の第二学期が始まった朝、わたしにはちょっとした事件が起こった。満磨^{みつまる}が転校してきたことである。教室に入ると、いつも空席になっていたわたしのすぐ後ろに、見知らぬ少年が座っていた。

目が合ったが、彼はそしらぬ顔つきで立ち上がり、両腕^{うで}を上げて退屈^{くつ}そうに伸びをした。いやに背が高い。面長^{おも}であごがいくらかとがっている。高い、かっこうのいい鼻梁^{びりょう}が伸びていて、目じりが少しばかりつりあがっている。二年生のくせにもみあげを長くし、にきびをほお骨の辺りにつけている。

ベルが鳴り、口の大きな担任教師が入ってき、出席を取ると、わたしの後ろの少年に起立するように命じた。視線が一斉^{せい}に集まる中で、平然と立った。

〔満州^{まんしゅう}の大連^{だいにん}から木次^{きつぎ}満磨^{みつまる}君が転校してきました……。〕

教師がそんなふうで紹介^{しょうかい}すると、のっぽは平然と腰^{こし}を下ろした。満磨^{みつまる}とはお公卿^{くぎ}さんみたいなのにやけた名だな、と思った。満州で生まれたかららしい。

そのうち、どちらから話しかけたというわけではなかったが、席が前後だったせいで、満磨^{みつまる}とはすぐに口をきくようになり、休み時間にはいっしょに教室を出て、校庭でなんということもない立ち話をするようになった。そのうちに、わたしより一歳^{さい}年上だということ、父は早く死んで、兄が船長をしているということ、家には二人の姉がいることなどが分かった。

最初の図画の時間であった。

わたしは満磨^{みつまる}と小校庭のポプラ並木の根元に並び、画用紙を広げた。どこでも好きな所をかけばよいということであった。視界にはバレーボールのコートがあり、その向こうにはポプラやヒマラヤ杉^{すぎ}の木立があり、その上にチャペルの十字架^かが突き抜^ぬけている。

わたしは満磨^{みつまる}をのぞいて、内心驚^{おどろ}いた。彼がひざの上に広げているのは、大きなスケッチブックのページなのだ。それも学校前の文房具屋^{ぼうぐ}には売っていないような上等のもので、本職の絵かき用らしい。紙も上質だし、とじられた枚数も多い。わたしの一枚きりの、文房具屋で買ったものとは、まるきり違^{ちが}う。

満磨^{みつまる}はスケッチブックの半分ほどの所を広げている。ということとは、そこまでのページには絵がかきこまれているわけだ。それに、横に置いた水彩絵^{さい}の具の道具も大きくて、チューブの色数も多い。その日まで、満磨^{みつまる}は絵については一言ももらさなかったのだ。

満磨^{みつまる}は4Bを軽く持って、丁寧^{ていねい}に素描^{すいぞう}している。構図は木々に透^すけて見えるチャペルだが、その手つきは中学生のものとは思えなかった。それに、素描だけで、りっぱに一枚の絵になっている。しかも満磨^{みつまる}は容易に絵筆を取ろうとせず、^②タイシヨウと自分の素描とを首振り人形のようにしては見比べている。

絵皿に何色もの色を溶^といた。一筆ごとにきれいに筆洗で洗う。それから、色彩を乗せていく。わたしはまた、驚いた。わたしのように荒^{あら}くぬりたくるというのではなく、点描派のように色を重ねてゆくのであるが、その発色が実に鮮^{あざ}やかで、みずみずしい。

満磨^{みつまる}が筆を置いたとき、わたしはほとんど声をあげそうになった。緑色^{きょくしき}は輝^{かが}き、その向こうの塔^{とう}の、赤れんがのセピア色^{セピア}と調和している。どう見ても、中学生の絵ではなかった。大人の、それも本職のような絵だ。わたしは緑の上に赤や黄をぬりつけて、よごれかえった自分の絵を隠^{かく}したくなった。絵筆をよく洗わずに使うものだから、満磨^{みつまる}の絵と比べると、まるでぞうきんのように見える。

「できたかな?」

頭上で小柄な若い図画教師の声がした。

ずっと後年になって知ったことであるが、その図画教師は、日本のエッチングの開拓者の一人であった。(中略) 請われて

中学部の図画教師になったのは、わたしたちが二年生になったときである。
「きみはそうとうかきこんでいるらしいね。どれ。」と、教師は満磨のスケッチブックを取り上げた。つられて、わたしも満磨も立ち上がった。スケッチブックが一枚ずつ繰られてゆく。りんごや花のスケッチがあり、波止場や公園の並木の風景があつた。どれも大連でかいたものらしいが筆致はこまやかで、色調が美しい。

先生はスケッチブックを満磨に返すと、実に意外なことを言った。

「元町の額縁屋の絵だね。」

わたしもその絵のことは知っている。その店には富士山とか山の湖とか、色付き写真のようにきれいな絵が並んでいた。が、それを図画教師がむしろ軽蔑べつしきっていることは、わたしにもその語調ですぐ分かったものの、なぜ、満磨の絵がそうなのかはのみこめない。続いて、教師は、もつと意外なことを言った。

「君はうまいよ。でも、もつと思いきってかかないといけないね。その点、この君の絵のほうはずっとおもしろい。」
そういつて指差したのは、地面に投げ出したように置いたわたしの絵であつた。

「赤の色がおもしろいね。神経が出てるよ。」

「神経」という言葉も、意外であつたが、それから教師は再び満磨に言った。

「君は才能があるんだから、今のまま固まっではいけない。今のかき方をこわすようにやってみたまえ。」

最後の言葉は、優しい調子になっていた。そして、わたしたちを離れ、手を後ろに組んだ、背の低い後ろ姿が遠ざかっていった。

満磨の顔は、急に白くなっているように見えた。教師の言葉にも、終始黙りこくっていたけれど、彼が怒っていることはよく分かった。そのため、わたしまで気まづくなった。

その日、級長が絵を集めにきたとき、満磨は出さなかつた。

その後しばらくして、わたしと満磨とはつまらぬことで仲たがひし、口をきかなくなつた。

晩秋に絵画部の展覧会があり、満磨も一点だけ水彩画を出していた。それを見て、驚いた。トンネルが画面の真ん中に黒い半楕円の影を作り、その前は真っ赤にかれた草がいちめんぼうぼうと描かれていたのだ。最初にわたしをびっくりさせたような丹念な筆致はない。まして、元町の額縁屋の絵ではない。構図はいたって単純だけれど、かれ草の赤がさえながらひどく寂しい。トンネルの穴にも、空虚な重さが詰めこまれているといった情感がある。わたしはどんな油絵よりも、たった一枚だけの満磨の水彩画に感心した。

満磨と和睦したのは、展覧会がすんでしばらくしてである。どんなきつかけだったかも分からないような仲直りであつた。

和睦した日の昼休み、わたしと満磨とは日の当たる校舎の、れんがの壁に背をくっつけて並んでいた。冬に入ってポプラの葉は一斉に散り、空だけが青い。

満磨が、ぽつりと言った。

「展覧会のおれの絵、見たか？」

「見た。トンネルに赤い草の絵。」

「どうだった？」

「よかった。今度の展覧会でいちばんよかった。」

「ほんとにそう思ったか？」

「ほんまだ。おべんちゃらやない。」

「ほんとか。……よし。」

満磨はさつきから青空に目を据えたままであったが、その「よし」と言うときは気合いをかけるような調子になった。それから、間をおいて言った。

「おまえは、絵が分かる。」

わたしには、その満磨の一言が、身内がぞくぞくするほどうれしかったことを今も覚えている。そして、赤がれた草の中のトンネルは、その日から四十年以上もたった今も、わたしの大脳（き）の壁面（き）に褪色（き）することもなく掛かかっているのだ。

満磨はきつと、^⑦ 図画教師から「元町の額縁屋の絵」と言われた日から、苦しみ続けていたのにちがいがなかった。そのひそかな若い苦悩（う）と格闘（う）とがトンネルの中に充填（注15）されているように思い返された。その絵はあるいは満磨の短い生涯（が）においても会心の作であつたかもしれず、今なおどこへ出しても見るに堪える絵であつたと思う。

（足立巻一「親友記」）

〈注1〉鼻梁……鼻すじ 〈注2〉満州……昔の中国東北部の呼び名 〈注3〉大連……中国の都市

〈注4〉お公卿さん……宮中の貴族 〈注5〉チャペル……キリスト教の礼拝堂

〈注6〉素描……鉛筆などを使い、一色で描かれた絵・デッサン 〈注7〉セピア色……赤みがかった茶色

〈注8〉エッチング……銅版画 〈注9〉請われて……頼まれて

〈注10〉波止場……波を防いだり船を着けるために海に突き出した長い建造物のある港 〈注11〉額縁屋……現在の画材屋

〈注12〉晩秋……秋の終わり頃 〈注13〉空虚……何もない空っぽの状態 〈注14〉褪色……色落ちすること

〈注15〉充填する……詰め込む

問一 — 線①「一言ももらさなかった」とありますが、もらさなかったのはどのようなことですか。四十字以内で説明しなさい。

問二 — 線②「タイショウ」について

（1）この場合の意味にふさわしい漢字で書きなさい。

（2）具体的には何を指していますか。文中から十五字以内で抜き出して書きなさい。

問三 — 線③「この君の絵のほうがずっとおもしろい」とありますが、図画教師はなぜ「わたし」の絵の方をほめたのですか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 本当は満磨の方が上手だと思ったが、満磨にやる気を起こさせたかったから。

イ 満磨と「わたし」が互いに競い合つてさらに技術を向上させてほしいと思ったから。

ウ 「わたし」の絵にはこの教師が絵に求めているものが描かれていると感じたから。

エ 「わたし」の絵には将来有望と思われる素晴らしい才能が表れていると感じたから。

問四 — 線④「わたしの絵」の比喩表現を文中から名詞の形で抜き出しなさい。

問五 — 線⑤「彼が怒っていることはよく分かった」とありますが、なぜ彼は怒ったのですか。自分の言葉で説明しなさい。

問六 — 線⑥「丹念な筆致」とありますが、それはどのような描き方ですか。文中の語句を使って三十字から四十字で説明しなさい。

問七 — 線⑦「格闘」とありますが、何のための戦いだったのですか。文中の語句を抜き出して、次の空欄を十字以内でうめ、答えを完成させなさい。

ための戦い

問八 〜〜線A「いやに」、B「会心の作」の意味をそれぞれ次のア〜エの中から選び、記号で答えなさい。

A いやに		B 会心の作	
ア	感心するほどすばらしく	ア	気持ちのよい作品
イ	他人を見下すように	イ	最高の作品
ウ	普通とちがってとても	ウ	反省に満ちた作品
エ	不愉快な感じに	エ	満足の行く作品

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

森の植物は、いろいろな高さに葉をいっぱいに広げています。このことは、太陽からやってくる光をうまく十分に利用できるかたちになっていることを意味します。たしかに、森の光合成量はほかの植物群より大きいようです。

光合成とは、太陽光を利用して、空気中の二酸化炭素と土の中の水や養分を原料にして、植物が自分の体を作ることです。ちよつとむずかしいえば、無機物（生きものではないもの）から有機物（生きものの体を作っている物質）を合成することです。光合成ができるのは、葉緑素を持っている植物だけだということは、知っていますね。

動物は葉緑素を持っていませんから、自分で有機物を作ることができません。A、植物を食べます。毛虫が木の葉を、鳥やリスが木の実を食べ、カミキリの幼虫が木の幹を、コガネムシの幼虫が木の根をかじります。木の汁をすすう虫もいますし、シカやカモシカは木の葉や小枝まで食べます。

B、直接植物を食べない動物もありますが、彼らは植物を食べた動物を食べます。クモは植物を食べた毛虫を食べ、小鳥はクモを食べ、ヘビは小鳥を食べ、ワシはヘビをとらえます。クモもヘビもワシも、もとをたせば植物を食べているわけです。

植物が光合成したものは、植物の生活に使われるだけでなく、このような「食う食われる」の関係（食物連鎖）といえます。を通じて、すべての動物の生活をもまかなっているのです。

植物は葉を落したり枯れたりします。動物も排せつ物を出したり死んだりします。このような死んだ「I」が土の上につきつぎ積もっていったら大変ですが、これをえさにしている動物がいます。その主役は土の上や中にいる小さな動物たちですが、彼らがかみくだきやわらかくした「II」には、微生物がとりついてくさります。

くさるということは、「Ⅲ」がまたもとの二酸化炭素や水や養分などの「Ⅳ」にもどることです。こうしてもとにもどった「Ⅴ」は、またつぎの光合成の原料として使われます。

C、植物↓動物↓微生物↓植物と、物質はぐるぐるまわっているわけで、このことを物質循環じっぴんかんといいます。どんな生態系にも、大なり小なりこのような物質循環がありますが、その規模が大きくて、欠点が少なく、うまく働いているのが森林です。

たとえば、肥料をやらずに田畑で農作をくりかえせば、たちまち土地の生産力はおとろえていきますが、森林では自然のままに放っておいても生長を続けていきます。森林では、自分の落とす有機物でその土地を肥やし、土をよくしているからです。^①森は自分で自分をやしなっている、といえるのです。

なお、森林の場合、生きた植物が動物に食べられる割合はごくわずかで、枯れ葉となって直接土に行くほうがうんと多いのがふつうです。落ち葉は、それを落とした木の直接の肥料なのです。

物質循環ということで大切なのは、物は使い捨てでなく、一度使ったものをまた再び使う、ことです。森林を代表とする自然は、この原理を大切にしています。くりかえして使わないと、地球上の物質はたちまちなくなってしまいうからです。

生態系というもののなかで、生物たちもいろいろな環境も、まったく無関係というものはなにも一つありません。どこかでつながりあい、たがいに何かの役にたっています。

自然にはいろいろな生態系があります。それを生物と環境のまとまりだと考えれば、池、湖、海、田、畑、草原、森林、公園のしげみ、お宮の森、庭の植えこみ……、オタマジャクシのいる道ばたの水たまり、ボウフラのいる竹の切り株かきだつて一つの生態系かもしれません。

しかし、その生態系がほんの一時的なものか、何十年、何百年と長つづきのするものか、が大切です。長つづきする生態系ほど安定しているわけですから。^②

長つづきする安定した生態系の条件とはどんなものでしょうか。まず第一に、つねにエネルギーの供給が十分ということです。植物の光合成には太陽エネルギーが必要で、また光合成でつかまえられたエネルギーは物質循環の各段階で使われますから、つねにエネルギーが与えられていなければならないのです。

つぎに生態系がその環境条件にあつたものであること。これはいうまでもないでしょう。

三番目に、生物の種類がたくさんあり、たがいに補いあっていること。種類が豊富なら、ある生物が全滅めつするようなことがあつても、物質循環の中のその部分をほかの生物がかわって受け持ち、ちゃんと物質循環が働きつづけられるからです。

つぎに種類ごとの生物の量が多すぎても少なすぎてもいけないことです。病害や虫害の大発生は、その生物の量が多くなりすぎた例です。逆にある生物の量が少なすぎるときには、物質循環の流れがそこでくいとめられてしまいます。いずれにしても、その影響は生態系全体に広がっていきます。

最後に、生物と環境とのつりあいを保つこと。生物は環境から影響を受けているだけでなく、生物は環境に働きかけ環境を変えたり維持いしたりするのに役だっています。生物が協力して土を作ることを思いだしてください。

こうした条件を考えると、生態系が安定し、長つづきするためには、やはり物質循環というものが、いかに重要かということがわかります。物質循環が満足に働いているかどうか、生態系の運命を決める、といつてもよいでしょう。

森林は、陸上ではもっとも規模が大きく、生物の種類も多く、複雑な構造をもつ生態系です。そこには大型の木から微生物まで各種の生物が住み、光合成する力が大きく、物質循環もうまくはたらき、生物と環境とのおたがいの関係も密接です。安定性という点でも、すぐれた生態系なのです。

問一

A

C

にあてはまる言葉を次のア～カの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし

イ もちろん

ウ つまり

エ そして

オ だから

カ なぜなら

問二

「I」～「V」には、A「有機物」か、B「無機物」のどちらかの語が入ります。それぞれふさわしい方を選び、記号で答えなさい。

問三

線①「森は自分で自分をやしなっている」とありますが、これはどういうことですか。自分の言葉でわかりやすく説明しなさい。

問四

線②「供給」の反対語を答えなさい。(答えはひらがなでもよい。)

問五

次の一文は本文のどの部分に入れるのが適当ですか。

の中で、この一文が入る直前の五文字を書きなさい。

「学級委員が一人なら、その人が休むと学級会が開けません、委員が何人かいれば、その一人が休んでも学級会はだいじょうぶ、というようなものです。」

問六

森林が安定した生態系を保てる理由は何ですか。百字以内で説明しなさい。

三

次の1～5の文中の□に当てはまる漢字をそれぞれ一字入れ、文を完成させなさい。

- 1 彼女は、有名人に知り合いが多いことを□にかけている。
- 2 □を割ってきちんと話せば、おたがいの誤解も解けるだろう。
- 3 このまま□をこまねいているだけでは何も解決しない。
- 4 □に衣着せぬコメントで人気のニュースキャスター。
- 5 私の□を立てるつもりで、今回だけは承諾してくれないか。

1	
2	
3	
4	
5	

100
字

問六

[illegible]

問四

問五

問三

問

I	
II	
III	
IV	
V	

問一

A
B
C

2

問八

A
B

問七

ための戦い

問六

[illegible]40
字

問五

問三

1001

問四

Downloaded from ascelibrary.org by New York University on 06/01/15. Copyright ASCE, For All Rights Reserved, No part of this document may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or by any information storage or retrieval system, without permission in writing from ASCE.

問二

(1)

(2)

[illegible]

15字

問

[illegible]40
字

1

◆ 字数制限がある問題は、「、」や「。」も一字と数えます。

国語解答用紙

受番	験号
氏名	